

情報交換は創造へのエネルギー

病院長 中村 肇

IT技術の進歩により、情報は一瞬にして世界の隅々まで届く時代となりました。このたび、こども病院に新しく発刊される広報誌を通じて、われわれが持っている貴重な情報が、広く日本の、世界の子どもたちのしあわせに役立つものと大いなる期待と夢を抱いています。



今日の専門分化しすぎた医療に最も欠けているのが横のつながりです。この広報誌が「医療者と患者」「職種間での連携」、相互理解の手段になることを願っています。

あらゆる情報を社会に公開し、外部からでも理解しやすい、透明性の高い病院づくりこそが、医療への信頼を高め、医療のレベルアップにつながります。みんなの力で作成されるこの広報誌が新しい時代の小児医療への道しるべになると信じています。

管理局長 太田昭照

県立こども病院は昭和45年に県政100周年記念事業として、国立小児病院に次いで全国で2番目の小児専門の総合病院として開設されました。以来33年間、県民の皆様の一歩一歩に積極的に応え県下の小児医療の中核となって活動して参りました。



今、まさに少子化の時代にあって、次代を担うこども達を一人でも多く健やかに誕生させ、育み、社会の一員として活躍できるようにすることが、時代の要請として求められており、当院の使命はますます重要です。

県立こども病院は、基本理念及び基本方針の下、より良質な医療を提供し、県民の皆様から信頼され安心してかけられる県立病院として、今後さらなる充実発展のため、この度、県民の皆様のご多様な意見を聞き、医療ニーズを的確に把握し、病院運営に反映させるべく「広報誌」を発行いたしました。

県民の皆様方から寄せられます積極的なご意見を踏まえ、職員一人一人が共通の課題を認識し、共に病院の今後を見据えて改善のために、一歩一歩着実に取り組んで参りますので、ご支援いただきますようお願いいたします。

看護部長 笹山美代子

創刊おめでとうございます。看護部は、以下の「看護部理念」にそって日夜努力しています。



1. 命を守り育てることに努力し、真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、患者家族の皆様のご安心と満足が得られるよう看護提供に努めます。
2. 皆様のご健康ニーズに応えることができる専門的で良質な母子看護を提供します。
3. 患者家族の皆様を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動し、療養環境を整えます。

●「こども病院エンブレム」の由来

こども病院は県政100年の記念事業の一環として、昭和45年にわが国で2番目のこども病院として開設されました。また平成8年には周産期医療センターが併設され、出生前から母と児の一環した管理が可能となりました。このエンブレムは昭和80年に職員からの公募で選ばれたものです。兵庫県旗を基調に国際化時代にふさわしく英語で病院名をふち取りし、子供を肩車する父親、赤ちゃんをだっこする母親、はいはいする子供の幸せな家庭を表現したものです。

●「げんきカエル」の由来

本誌創刊にあたり職員よりニックネームを募集した結果、「げんきカエル」が選ばれました。放射線科の待合いの角に座って周りを見渡している大きな石のカエルがニックネームの由来です。周産期医療センター建設中に出てきた御影石の塊でできています。みんな元気になって退院できるようにとの願いを込めて彫りだされました。小さな子供さん達が喜んで触れるので頭が少し黒ずんできました。こども病院のマスコットとしてこれからもみんな元気になって退院できるよう見守っています。



アトピー性皮膚炎について

免疫アレルギー科医長 三好麻里

●はじめに

アトピー性皮膚炎とは、種々の因子に敏感に反応するアトピー（アレルギー）体質を持つ人に発症し、良くなったり悪くなったりを繰り返す、かゆみをともなう湿疹、と定義されます。一般に乳児は湿潤（じゅくじゅく）、幼～年長児は乾燥（かさかさ）成人は苔癬化（象皮様）となります。良くなったり悪くなったり症状に波があり繰り返すこと、かゆみ、特に夜間不眠をともなうかゆみが、お子さんにも御家族にも大きなストレスとなります。上手につきあってあせらず治していくことが大切です。

●アトピー性皮膚炎の原因

いろいろな要素がからんで悪くなりますので、これだけ（たとえば食べ物だけ）を気をつければよいという単純なものではありません。ひとりひとりの体質や症状にあった対策を考えながら、成長・発育や心理面にも配慮して、バランスの良い治療を進めていきましょう。

●アトピー性皮膚炎治療の原則

スキンケアと環境整備はどの年齢のお子さんにも不可欠です。

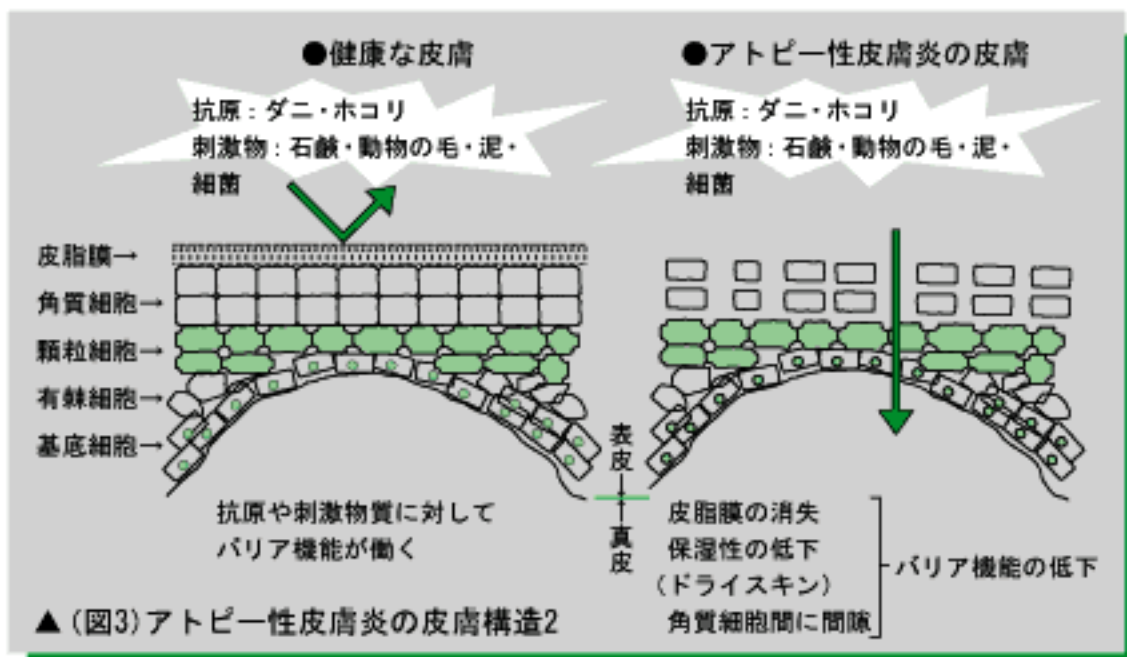
除去食療法は年長になると必要な方の頻度は少なくなります。（図1）

1. スキンケアについて

スキンケアが重要なことを説明します。

（図2）は健康な皮膚とアトピー性皮膚炎の皮膚の構造の模式図です。

アトピー性皮膚炎ではバリア機能が低下して水分を保持できなくなります。乾燥してかさかさするのはそのためです。外用薬でバリア機能を補正してあげなければなりません。また（図3）に示したようにバリア機能が低下しているアトピー性皮膚炎の皮膚では、ダニ、ホコリなどの抗原が侵入しやすくアレルギーの悪循環がおこります。外界からの様々な刺激にも弱くなります。細菌感染もおこしやすくなり、トビヒ等でさらに悪化する原因となります。そういうことを防止するためにもスキンケアはとても重要です。



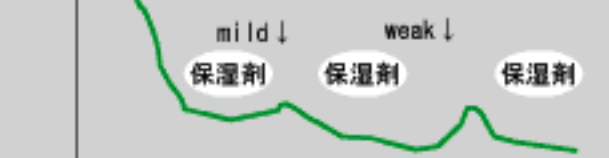
●スキンケアの4大原則

1. 清潔に保つこと：入浴、シャワーはまめにしましょう。
2. 乾燥を防ぐこと：それぞれにあった適切な外用薬を使用しましょう。
3. 刺激を避けること：寝具、衣服はかぶれにくいものとし、住環境に注意しましょう。シャンプーはかぶれやすく注意が必要です。洗剤にも注意して柔軟剤などは使わないようにしましょう。
4. 感染を防ぐこと：必要に応じて消毒療法をします。

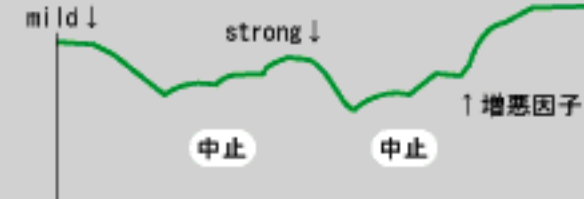
2. ステロイド外用療法について

ステロイド外用療法についてのご質問も多く頂きます。当院ではステロイド外用療法を強制することはありませんが、ある程度以上の重症度の場合には適切な指導の元に必要十分なステロイド外用療法をお勧めしています。ポイント

●正しいステロイド外用薬の使用法



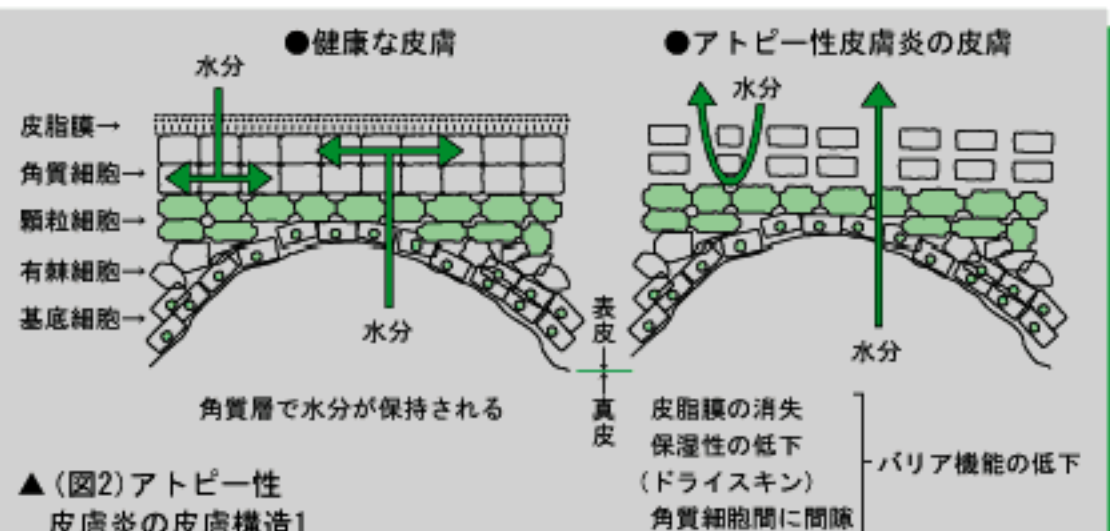
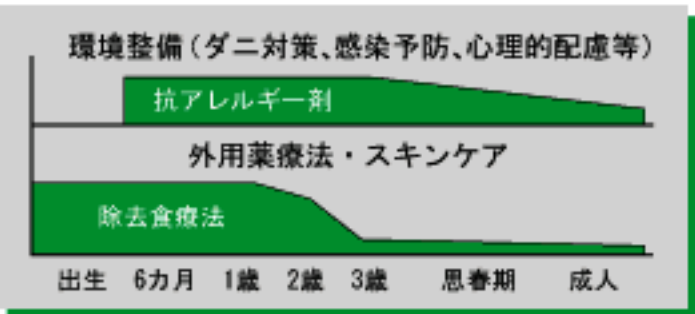
●誤ったステロイド外用薬の使用法



▲（図4）ステロイド外用薬の使用法

What's new in the hospital?
診療部
トピックス

▼（図1）アトピー性皮膚炎の年齢による治療方針の流れ

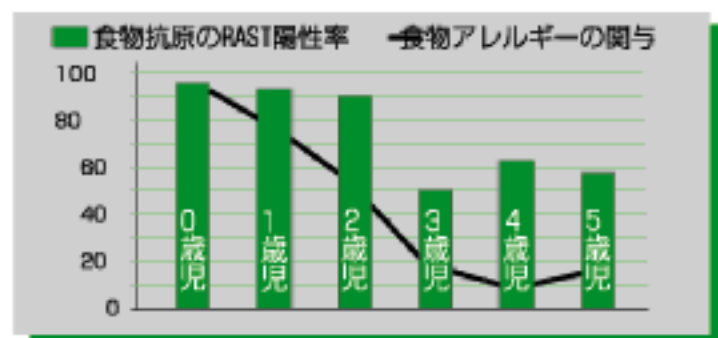


は(図4)にお示しているようなステップダウンの使用法をすることです。ステロイド外用薬は適切な管理の元で使用すれば決して問題はありません。

3. 除去食療法について

除去食療法は食物がアトピー性皮膚炎の原因である場合や、アナフィラキシーなど重篤な症状を起こす場合に行ないます。ただし、必要最小限にとどめることが大切です。

(図5)に示しましたように、年長児になりますと腸管の免疫力がついてきて、たとえ血液検査で陽性の食品でも食べても大丈夫になってきます。



▲(図5)アトピー性皮膚炎における食物アレルギーの関与
平成5年度厚生省アレルギー総合研究事業報告書より

当院では食物負荷テストを行なって、やむなく除去食療法を必要とした子供さんでもできるだけ早期に解除するようにしています。早期解除は子供さんの成長、発育はもちろん母子共に心理的なストレスを考えても重要です。また、除去食療法中には栄養指導課で栄養充足率を調査して、それに基づいた栄養指導をして成長に必要な栄養が不足しないように留意しています。お気軽にご相談ください。

まとめ

アトピー性皮膚炎を治していくのに大切なことは、バランスよい治療をすることです。各個人の病変がいったい何と何の理由で悪くなっているかをきちんと診断して、各個人の実情に合わせた対応が重要です。少しでもストレスを軽減して明るい気持ちで治療に取り組めるようスタッフ一同努力していますので、ご心配なことがありましたらお気軽にご相談ください。

看護部 だより About nursing care

看護部の紹介

看護部長 笹山美代子

当院の中で一番大きな所帯が看護部です。全職員数の約65%が看護部職員です。「臨床現場最前線24時間」まさにそのなかで、看護部理念に裏づけられた看護ケアの提供に努力しています。

●「一般外科主体・救急医療室」の紹介をします。

一般外科主体・救急医療室は、一般外科主体22床・救急医療室6床の計28床の病棟です。看護長含め34名の看護師で看護しています。



本館の4階にあります。エレベーターを降りて右手が一般外科主体、左手が救急医療室です。



救急医療室は、兵庫県の「小児救急医療システムの整備」を受け、平成14年10月にオープンしました。365日24時間体制で3次小児救急患者を受け入れています。突然の病気・事故で入院された患者様の命を守るとともに、ご家族の方の心情にも十分配慮し、看護しています。



一般外科主体は、主に一般外科・泌尿器科で手術目的の患者様が入院されています。平均の入院期間は10日と短いですが、面会時間にも柔軟に対応し、お子様のことを一番よく知っているご家族の方と協力し、よりよい看護が提供できるよう努力しています。



◆お薬ひとロメモ

薬剤部長 郷地啓子

普段、薬剤部では小さなお子様をお持ちのお母様方や病院の看護師の方々からお薬についての様々な質問が寄せられております。

そこで寄せられた様々な質問にお答えする「お薬こんな時どうしたらいいの？」シリーズを掲載させて頂くことを企画しました。毎回趣向を凝らし「へえーそうなんだ。知らなかった!」と思っ

て頂ける内容の連載を心掛けていきますので楽しみにしてくださいね。

●「お薬こんな時どうしたらいいの？」

シリーズ第1弾

「困っています。

赤ちゃんに薬を飲ませる方法を教えてください!」大切な赤ちゃんが熱を出したり、病気をされた時、こな薬

や水薬を受け取られて困っておられるお母さんをよくお見かけします。大きくなってこな薬が飲める場合はいいのですが、赤ちゃんの場合は



薬剤部
通信

Correspondence
from
Pharmacy

困ってしまいますね。……

こんな質問にお答えして。

◆こな薬の場合

スプーンの上にこな薬と少量の水を加え、お団子位のかたさに練ってください。練ったお薬を指で赤ちゃんの上あごか、ほほの内側にサッと擦り付けてください。ただし、練ったお薬は舌の上に乗せないでね。なぜって舌の上は苦味を強く感じる場所ですから。手はきれいに洗ってくださいね。赤ちゃんは抵抗力がありませんから。また、小さなお子様には少量のジュースや牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなどに混ぜて飲ませてあげることできますよ。

◆水薬の場合

手で哺乳瓶の乳首を持って、乳首の上から水薬を少しずつ垂らして赤ちゃんに乳首を吸わせてあげてください。少し大きくなるとスプーンのまま飲ませてあげることできますよ。

◇注意して頂きたいことはお薬を飲ませることに必死になって無理強いしないよう心掛けてくださいね。ゆったりとした気持ちで赤ちゃんにとっても美味しいものをプレゼントする気持ちで飲ませてあげてくださいね。

◆検査部の紹介

検査技師長 重田裕司

検査部長と病理医そして19名の検査技師が働く研究検査部は、こどもの身体に係わる検査データの情報分析部門として24時間365日、病院機能の一翼をこなしています。検査データは病気の経過や治療の効果を科学的かつ客観的に判断する指標ですから、その精度や正確性はもちろん結果が出るまでの迅速性が求められます。検査部では日々の精度管理に加えて毎年日本医師会や日本臨床衛生検査技師会などのコントロールサーベイに参加して検査データの正確性を検証しています。さらに検査技術の向上と検査データ

の信頼性確保に向けて努力しています。●「検査を受けるときのちょっとヒント」

1.食事をしてから2~3時間あとの

※食事：食後は血糖や尿糖、中性脂肪などが一時的に上昇し検査値に影響します。

食後は血清（採血後の血液が固まった後の液）が濁って検査に適しません。ビタミンCの多い飲料は尿検査（尿糖）に影響するので控えましょう。

2.リラックスして

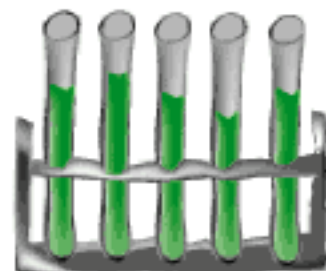
※検査室はこどもが怖がらないように明るい環境にしています。でも興奮したり、泣いたり検査値が変動する原因となります。「できるだけリラックスして」

※検査室では少量の採血量でも、十分な検査ができるよう工夫をしています。（こどもが安心できるよう採血室には保護者の方も入っていただけます。

3.研究検査部は24時間体制

※研究検査部は平成6年から夜間および休日に検査技師を準夜勤、日勤を1名配置して24時間体制を行なっています。

※検査項目は血液検査、生化学検査、血液型、輸血検査、感染症検査、髄液検査などできるだけ広範囲の検査を実施しています。



Note
from
Lab

検査部
からの
おしらせ

放射線科 ひと口 メモ Memorandum from Radiology

◆ムムツ!放射線科撮影室が 変わった。

放射線科 芦原龍彦

「ハイ。息をすってとめられるかな」と言われ胸のレントゲン写真を撮ったり、手や足の骨の写真を撮ったりしたことのある方は多いと思います。また、付き添いで部屋の中に入りますよね。最近行きましたか?何か変わっていませんか?ちょっとにぎやかになっていませんか?そうなのです。4月に撮影装置が更新となり、その時に装置にペイントしたり、内装やドアに動物の大きなシールを貼ったりと、にぎやかになっています。とかく病院といえば清潔感を出すためか、白く冷たい感じがしますよね。しかし、子どもにとっては知らない部屋で大きな機械を目にしただけで怖がって泣き出すこともありますよね。少しでも気持ちが楽になるのではないかと工夫してみました。一度ご覧ください。ご意見を待っています。



◆栄養指導課における 行事食への取り組み

栄養指導課長 下浦佳之

日本は四季おりおりの美しい自然に恵まれた国です。人々は古くからそれぞれの季節に自然の移り変わりを愛し、風土に育まれてきた伝統的な年中行事とともに、季節ごとのハレの日を四季を彩る様々な旬の食品を使った料理で祝う日本古来の行事食は今も息づいており、大切にしたいと考えています。しかし、今日では年々

核家族化が進んで行事も簡素化され、行事の意味や行事食の存在も徐々に忘れられつつあると感じられます。また、あまりにも生活が豊かで便利になりすぎ、どんな野菜や果物でも1年中手に入れることができるようになった反面、季節感を食べ物から感じる事がなかなか容易でなくなりました。病院給食において行事食は、単調になりがちな入院生活に変化をつけるとともに、家族を思い出させ、回復のための意欲を起こさせる一因となるものと考えられ、献立に

●当院の栄養指導課で実施している年間の行事食等を簡単に紹介させていただきます。

実施月日	内容等	備考
1/1~3 (3日間)	正月用献立・お楽しみ袋(おやつ)	各行事の実施時にはメッセージカードを添付しています。これらの行事食以外に季節に応じた献立を組み入れて(お花見弁当、冷やしラーメン、松茸ご飯等々)旬の味覚等を患者さまに提供しています。
2/4,14	節分(鬼の面・節分用豆)・バレンタインデー	
3/3	ひな祭用献立(ひな寿司・ひなあられ)	
5/5	こどもの日献立(こいのぼりライス)	
7/7	七夕献立(七夕ちらし寿司)	
8/下旬	土用の丑(鰻)	
9/下旬	お月見(月見だんご)	
12/下旬	病棟クリスマス開催時のプレゼント配布(おやつ)・冬至(南瓜)	
12/24	X'masメニュー(ローストチキン、ケーキ等)	
12/31	大晦日(年越しそば)	

文化の
味わい

季節感を出すことで食への楽しみや喜びを味わっていただけるよう「心のふれあう」食事の提供を心がけています。

また、病院食としての意味合いばかりでなく、ハレの日のおもてなし料理の食文化をさりげなく伝えるという役割もあると考えています。

食事を楽しみにし、そして楽しみながら食べる食事を作るには、なんといっても食べる身になって調理する温かい思いやりが不可欠です。作ることと食べることを一つのこととして考える心が大切であると考えます。

Notice from Dietician 栄養 指導課 案内

3次小児救急医療室から

救急医療室長 上谷良行

医事課
ニュース
News
from
Administration
office

平成14年10月15日より県下における小児救急医療の拠点として県立こども病院に救急医療室が開設されました。

ご存知のようにわが国では小児に対する医療体制が決して満足できるものではなく、小さいこどもたちが夜間に急な発熱で小児科医に診察してもらいたくても診てもらえる病院がなく、探し回っている間に手遅れになって命を落としたというような悲惨なケースが幾度となく報道されるような状況です。小児救急医療がこのような状態に陥った要因には多くのものが考えられます。地域において病院の小児科の採算が取れない、小児科医の絶対数の減少等の理由から閉鎖され、夜間の当直体制がとれないこと、医療

が細かく専門分野に分かれ、こどもは内科の医師ではなく小児科の医師に診察してもらいたいという家族の強い要望

があること、核家族化により育児に対して助言をしてくれる人(主に祖父母)が身近にいないことなどです。

これまで小児の救急医療体制は、成人と同様に重症度によって入院の必要のない1次救急、入院医療の必要な2次救急、いわゆる救命救急の3次救急とに分けて整備を進めてきましたが、元来こどもは重症度の判断がつきにくく、一見軽症の1次救急と思われるこどもの中に大変な重症患者が含まれることがあるのが大きな特徴です。ですからこのような1次2次3次といった分け方で整備するのは現実に即していないことは明らかです。

とは言っても何とかしなければなりませんので、こども病院にさしあたって非常に重症の救命救急を対象とした救急医療室を暫定的に開設し、常に断ることなく重症のこどもたちを収容するような体制を作りました。できれば軽症と思われるこどもたちをはじめ、すべてのこどもたちを受け入れることが望ましいのですが、何しろ今の小児科医師の不足している状況を考えると、これが現在の精一杯のところだと思います。これまで約6カ月の間に約1500人のこどもたちに関わってきましたが、入院が必要なこどもたちは約500人で、そのうち緊急手術が必要であったり、人工呼吸器など高度の治療が必要なこどもたちは約50人ありました。600人ほどのこどもは救急で受診しましたが、入院の必要はなく、外来受診の形で家に帰っていただきました。また約400人の方から電話による問い合わせがあり、お電話だけで受診することなく経過を見ていただくことができました。このように3次救急とはいっても、実際には軽症のこどもたちから関わっている現状がご理解いただければと思います。

今後はできるだけ早くにいわゆる1次救急のこどもたちを受け入れることのできる体制を組み「困ったときにはいつでも診てもらえる」というように、こどもたちと家族が安心できる小児救急医療体制を作り上げるように努力していきたいと思っています。



ハートメッセージって
なんだろう？



看護部長 笹山美代子

ハート
メッセージ
より

Suggestions
from
"Heart
Message"

平成14年10月から当院では「ハートボックス」なるものを設置いたしました。これは患者家族のみなさまの率直なご意見・お気持ち・ご要望などをお聴きするための箱です。（各病棟入口と外来に3箇所）それが「ハートボックス」です。患者家族のみなさまのハートをそのまま届けていただくことを願って命名しました。そこに入っているメッセージが「ハートメッセージ」です。メッセージを真摯に受け止め、患者家族のみなさまのニーズをキャッチするとともに、こども病院としての反応を返していくことが重要だと考えます。

- 対応できること
- できないこと
- 早急には無理だが検討しなければならないこと
- なぜそうなっているのかの理由
- ご協力ご了承頂きたいこと・・・等、

それぞれの部署で回答させて頂いています。

（すべての設置場所に回答ファイルを置き、公表しています）

下記にその一部を掲載しました。

ハートメッセージ

とって毛わかりやすい
けんさをしてくれて
ありがとう

お返事

私たちは、患者さまのご家族の方に少しでも検査内容についてご理解いただけますよう、ビデオやパンフレット作りを行なっております。これからも「わかりやすい検査」に心がけて参りたいと思いますので、何かお気づきの点等ございましたら、お聞かせください。 1月10日
放射線科/診療放射線技師室/看護師
受付業務員/放射線科医師

HCU ICUに入る時、インターホンで名前を言ったら入、下の方と言われたけど、そのまゝ入っている人もいます。おトイレに手洗い、消毒もしない人もいました。確かにあそこトイレと出た時でもいちいち言うのが面倒なので、そのまゝ入りたかったと思います。看護士さんにも聞いたら、やっぱり面倒でも言ってくれと言われました。それだからもう少し徹底してほしいです。

メッセージありがとうございました。HCU・ICUはオープンフロアとなっているため、入室時にはインターホンで名前を言った後に入室して頂くようにしております。そのため入院時にはオリエンテーションを行なっていますが、もう一度私たちの中で入室時の説明が確実にできるように努めて行きます。貴重なご意見ありがとうございました。HCU 川口加代子 5月6日



基本理念

私たちは周産期医療および小児医療専門施設として母子、小児の総合的、高度専門的な医療を提供いたします。

基本方針

1. 私たちは患者の皆様および家族の人権と意志を尊重し、常に幅広い医療に関する情報を提供し、安心していただける医療を提供します。
2. 私たちは患者の皆様のプライバシーを尊重するとともに、望まれる情報は積極的に開示します。
3. 私たちは他の医療機関と連携を密にし、健康管理と予防医学にも取り組み、中核病院としての責務を果たします。
4. 私たちは専門的知識や技術の向上に努めるとともに、地域の皆様への医療啓発や医療関係者の生涯教育に努めます。
5. 私たちは職員の協調と活性化を図り、経営の健全化に努めます。

◆編集後記

またたくまに目に青葉から梅雨前線の季節になりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。この度、県民の皆さまや職員のかたがたに向けて広報誌を発行することとなりました。創刊にあたって職員から本誌のニックネームを募集したところ、薬剤部の奥川斉さんと看護部の菰野朱美さんより応募いただいた「げんきカエル」が選ばれました。「げんきカエル」の由来は表紙に載せたとおりです。こども病院へお越しになられたおりにぜひ見てやってください。今後、よりよいものにすべく努力したいと考えています。皆さまからのご感想や企画のご希望などご意見をお待ちしております。

兵庫県立こども病院広報誌編集委員会
芦原龍彦 池上由香 大橋正伸 菰野朱美
斉藤富美子 尻真貴子 山崎武美

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp